

■平野千恵子 ひらのちえこ 大久保暗殺・1878＝	浮世絵研究家。渡米留学して卒業後、偶然ボストン美術館東洋部に招かれ、美術品を整理・考証。
明治14年政変 1881＝ 3歳：	新潟県北蒲原郡出身でイギリス留学から帰国まもない海軍軍人平野爲信が、旧幕臣澤簡徳の三子濯子を娶って妻とし、その長女に生まれる。父は艦上勤務で不在がちのため、麹町琶飯田町の母の実家で育つ。維新の際の過労から病床にあった教養深い母方の祖母に寵愛され、漢籍はもちろん多くのことを教えられる。
岩倉具視没・1883＝ 5歳：	以後、弟3人が誕生。 父の勤務地の関係で、一家挙げて、芝公園に移住、 近所の寺子屋式の私塾{文友義塾}に入り、従兄弟姉妹と通学、一般の学校では得られない一種の天才教育を受け、
内閣発足・・・1885＝ 8歳： 帝国大学始・1886＝ 9歳 ：	この頃、六本木に転居。 麻布小学校に入学、初めて普通教育を受けると同時に、いきなり高等科に編入。
帝国憲法発布 1889＝12歳： 帝国議会始・1890＝13歳：	早くも全科卒業し、直ちに華族女学校初等中学科に入学。 この間、生来の勝気で過度に勉学した上、滝和帝に日本画を、小野鷲堂に習字を、その他、和歌・生花・琴などを学ぶなどしたため、健康を損ない、以後の発育にも影響、いわゆる短軀になる。
日清戦争始 ・1894＝16歳： 日清戦争終 ・1895＝17歳：	飛び級して同校全科を卒業。国学院大学附属の女子国文学会で佐々木信綱・落合直文らの薫陶を受け、とくに関根正直の影響で江戸文学さらには浮世絵に興味を抱くようになる。
白馬会・・・1896＝ 18歳 ：	その勧めで 女子師範学校国語漢文専修科に席を置くようになり、
	終了。健康に恵まれないこともあって。父が教職に就くことを嫌ったため、さらに女子英学塾に入り、
日露戦争終 ・1905＝ 27歳 ：	
韓国反日暴動 1907＝29歳：	卒業。父が死去、母は長年病床にあり、弟達は未だ若年で学業中途だったため、一家を背負うことになり、東京府立女子師範学校と第二高等女学校で教鞭をとり始めるも、本人の志望は教壇に立つよりも学問的研究にあつて、海外留学の機会を窺ううち、
韓国併合・・・1910＝32歳： 大逆事件判決1911＝33歳： 明治天皇没 ・1912＝34歳：	すぐ下の弟珪蔵が横浜正金銀行に就職して 海外赴任するなど、弟たちは独立して行くが、自らは母のため献身し続けてその機会も失い、 母も死去。末弟と二人きりの寂しい生活を送るうち、 女子英学塾の恩師津田梅子とミス＝ハーッホンの配慮で、待望の米国留学が実現、
第一次大戦始 1914＝ 36歳 ：	渡米して、ボストンのシモンズカレッジに入学し、図書館学を専攻、
民本主義・・・1916＝38歳：	*卒業。どうしようかと思案中、ボストン美術館の東洋部助手に招かれ、膨大な蒐集美術品の整理・分類・考証にあたり、とくに蒐集点数で世界断トツの浮世絵については、自らの漢学・国文学の素養をいかして、美術館東洋部主任ロジの研究報告に多大の貢献をし、系統的分類や保存方法まで、後学のためになること大であった。全館員から手厚く優遇されて不満は無かったものの、次第に縁の下存在に耐えられぬようになり、自らも研究をしようと、収蔵品のなかでも数は多いものの、あまり研究されていない鳥居清長の的を絞って開始、陶磁器部長モールスから指導と激励を受けながら、厳格・周到・綿密に深めて行く。
原敬首相暗殺 1921＝43歳： 関東大震災 ・1923＝ 45歳 ：	休暇をとり、ドイツ赴任中の弟珪蔵の協力を得て、欧州各国の収蔵品などを調査、
世界恐慌 ・・・1929＝51歳：	再び休暇をとり、アメリカ留学中の末弟を連れて、弟珪蔵の協力のもと、欧州各地を再調査。
満州事変 ・・・1931＝53歳： 五一五事件・1932＝ 54歳 ：	その後も研究に励むも、生來病弱で、次々に病に罹り、内臓の大手術を受けることまであったため、出版が遅れる結果となる。
帝人疑獄事件1934＝56歳：	弟珪蔵がバリ赴任中に渡欧し、弟の家を拠点に、三度目の清長作品の欧州探訪旅行。 その後、病苦と戦いながら、著作に専念し、
日中戦争始 ・1937＝59歳： 健保+総動員 1938＝60歳： 第二次大戦始1939＝61歳：	*ついに、研究の集大成となる英文の論文「清長」が完稿、 *「鳥居清長の生涯と其作品」と題して、ボストン美術館から限定出版。この日本語版を出版しようと、1年間の休暇をとり帰国したが、保養かたがた姪甥を連れて奈良に遊び、京都滞在中、急性肺炎となり没した。 遺族・関係者の尽力により、その追悼を兼ねて4年後に出版の運びとなる。